

1. 芸術文化施設の設置状況と運営体制

1-1 芸術文化施設の設置概況

1-2 運営体制

1-1 芸術文化施設の設置概況

●回答施設の概要

今回の調査では、2000年3月末までに地方公共団体（一部事務組合、広域連合等の特別地方公共団体を含む。）または、地方公共団体が設立に関与した地方自治法第244条の2第3項、同施行令第173条の3に該当する法人が設置した「施設（対象施設の詳細については本報告書の「調査の目的と方法」の項に明記）」を対象とし、単館施設、複合施設を合わせて計4,895館から回答があった。また、複合施設を構成している主な施設を個別施設単位でカウントした場合の延べ施設数は計7,663館となった（詳細内訳については、巻末の一覧表参照）。

回答施設を設置主体別に集計したのが【表1】である。設置主体別の内訳は、都道府県設置340館、政令市設置316館、市区町村設置4,239館、無効54館で、市区町村設置施設が全体の87%に上っている。

回答施設のうち、「主たる施設内容がホール施設及びその複合施設（以下、ホール施設と略）」「主たる施設内容が美術館及びその複合施設（以下、美術館と略）」「主たる施設内容が練習場・創作工房及びその複合施設（以下、練習場・創作工房と略）」に該当する施設（以下、こうした創作活動に関わる施設を「芸術文化施設」と総称）は計2,941館であった。

この項では、この芸術文化施設2,941館について施設タイプ別に施設の設置状況、運営体制について集計を行った。

【表1】回答施設の設置主体別施設数

設置主体	総計
都道府県	340
政令市	316
市区町村	4,239
総計	4,895

●芸術文化施設の施設タイプ別割合

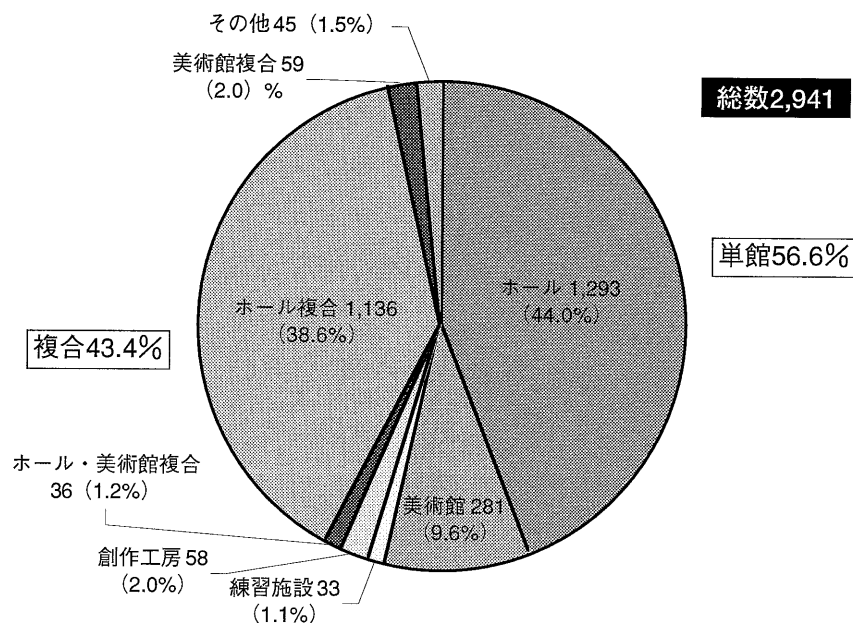
芸術文化施設の施設タイプ別の割合を示したのが【図1】である。芸術文化施設2,941館のうち、単館施設は56.6%（1,665館）、複合施設は43.4%（1,276館）となっており、芸術文化施設の4割以上が複合施設である実体が明らかになった。

施設タイプを細かく見ていくと、単館施設の内訳は、ホール施設が芸術文化施設全体の44.0%（1,293館）、美術館9.6%（281館）、練習場専用施設1.1%（33館）、創作工房専用施設2.0%（58館）となっている。まだ数は少ないものの、創作支援施設として練習場や創作工房の専用施設が開設されているのがわかる。

複合施設の内訳は、ホールと美術館の両方を持つ「ホール・美術館複合」施設が1.2%（36館）、ホールと美術館以外の複合である「ホール複合」施設が38.6%（1,136館）、美術館とホール以外の複合である「美術館複合」施設が2.0%（59館）、ホールも美術館も持たない練習場や創作工房との複合施設が1.5%（45館）となっている。

単館、複合を合わせると、主な施設内容としてホールを持つ館は芸術文化施設全体の84%（計2,465館）に上っている。この数字からも、地域における芸術文化環境づくりを考える上でこうしたホールの活用施策が極めて重要になると思われる。

【図1】 芸術文化施設の施設タイプ別割合



●芸術文化施設の設置主体別施設数

芸術文化施設を設置主体別・施設タイプ別に集計したのが【表2】である。設置主体別の内訳は、都道府県設置216館、政令市設置233館、市区町村設置2,492館で、市区町村設置施設が全体の84.7%に上っている。

設置主体別に施設タイプを細かく見ていくと、都道府県設置施設中22.2%が美術館単館タイプで、政令市の8.2%、市区町村の8.9%に比べると都道府県が美術館を単館で開設する割合が高くなっている。また、市区町村設置施設中40.2%がホール複合タイプで、都道府県の26.9%、政令市の32.2%に比べて高い傾向にあるが、全体的には設置主体によって開設する施設タイプに大きな差はみられなかった。

【表2】設置主体別・施設タイプ別施設数

設置主体	施設タイプ	施設数	構成比
都道府県	ホール単体	88	40.7
	美術館単体	48	22.2
	練習施設単体	2	0.9
	創作工房単体	3	1.4
	ホール・美術館複合施設	10	4.6
	ホール複合施設（美術館を含まない）	58	26.9
	美術館複合施設（ホールを含まない）	5	2.3
	練習場・創作工房複合施設 （美術館・ホールを含まない）	2	0.9
都道府県計		216	100
政令市	ホール単体	123	52.8
	美術館単体	19	8.2
	練習施設単体	5	2.1
	創作工房単体	4	1.7
	複合型ホール施設（美術館を含む複合）	3	1.3
	ホール複合施設（美術館を含まない）	75	32.2
	美術館複合施設（ホールを含まない）	3	1.3
	練習場・創作工房複合施設 （美術館・ホールを含まない）	1	0.4
政令市計		233	100
市区町村	ホール単体	1,082	43.4
	美術館単体	214	8.6
	練習施設単体	26	1.0
	創作工房単体	51	2.0
	複合型ホール施設（美術館を含む複合）	23	0.9
	ホール複合施設（美術館を含まない）	1,003	40.2
	美術館複合施設（ホールを含まない）	51	2.0
	練習場・創作工房複合施設 （美術館・ホールを含まない）	42	1.7
市区町村計		2,492	100
総計		2,941	

●年代別施設設置数の推移

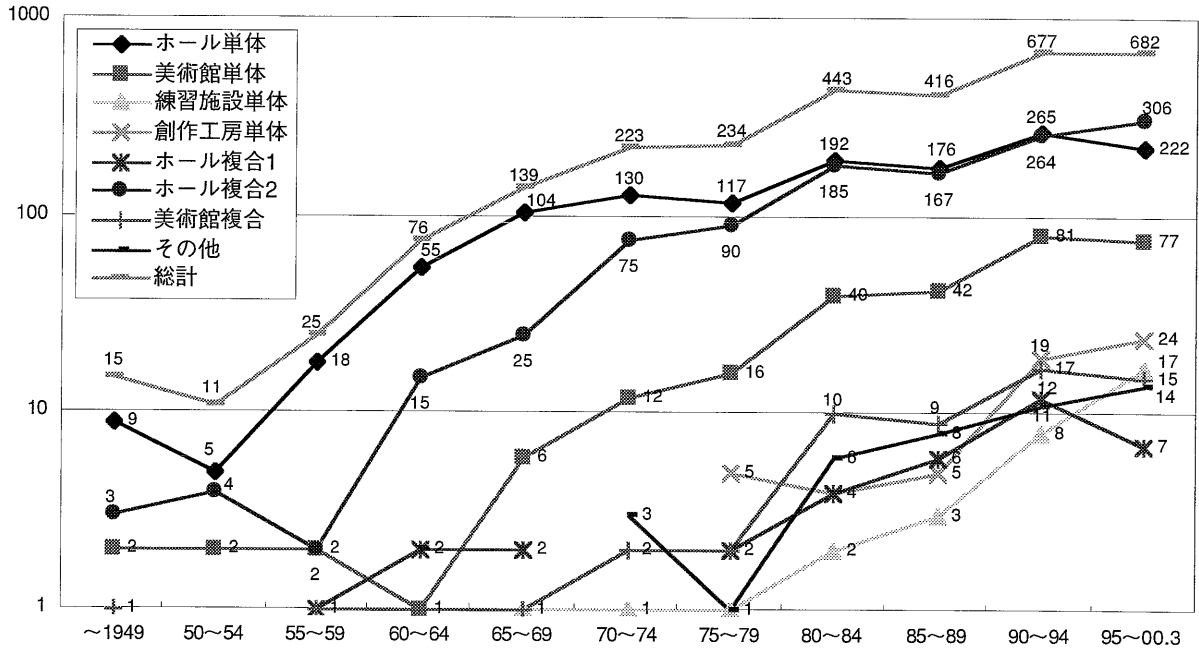
芸術文化施設の年代別施設設置数の推移を施設タイプ別に示したのが【図2】である。開館年代別に見てみると、80年代に開設された施設は70年代に開設された施設の1.9倍、90年代（2000年3月まで含む）は80年代の1.6倍とこの30年間に著しい数の施設が開設されているのがわかる。

最も多くの施設が設置されたのは90年代で、実に2,941館中46.2%にあたる1,359館が90年から99年の10年間に設置されているという結果になった。次いで多いのが80年代で、全施設の29.2%にあたる859館が設置されている。

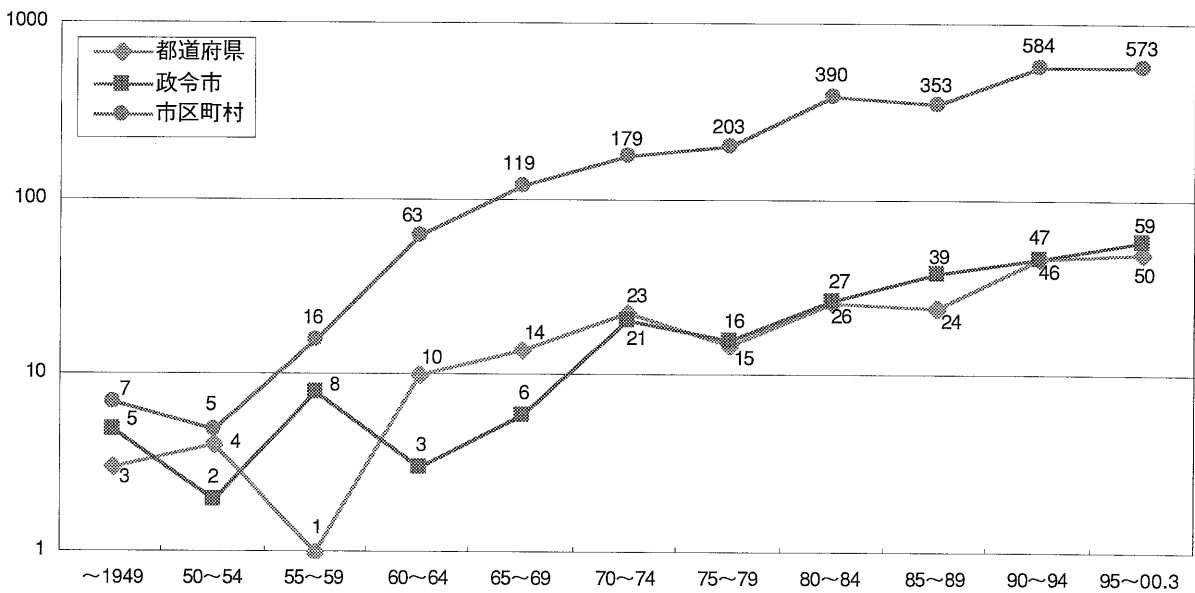
施設タイプ別の推移をみても、いずれの施設も80年代、90年代に集中的に施設が設置されていることがわかる。特に練習場単館、創作工房単館は90年代に設置された施設が75.8%、74.1%と圧倒的多数を占め、こうした創作活動支援施設の設置が近年急速にすすんでいる様子がうかがえる。

芸術文化施設の年代別施設設置数の推移を設置主体別に示したのが【図3】である。設置主体別の推移では、都道府県、政令市、市区町村設置施設とも、90年代に4割以上が設置されているなど、開館年代による設置比率にほとんど差はみられなかった。

【図2】 芸術文化施設の施設タイプ別施設設置数の推移（暦年）



【図3】 設置主体別施設設置数の推移（暦年）



1-2 運営体制

●芸術文化施設の運営形態

芸術文化施設の運営形態（委託・直営）を設置主体別に集計したのが【表3】である。地方公共団体の直営で運営している施設が芸術文化施設2,941館中1,882館と64.0%を占め、財団などへの委託が34.9%（1,027館）となっている。

また、設置主体別に見ると、都道府県設置施設で委託が64.8%、政令市で委託が72.1%といずれも委託比率が高くなっているのに対し、市区町村設置施設では委託28.9%、直営70.2%と直営館が極めて多く、設置主体の規模が小さいほど直営比率が高くなる結果となった。

【表3】芸術文化施設の設置主体別運営形態（委託・直営）

設置主体	直営	委託	無効	総計
都道府県	69 (31.9)	140 (64.8)	7	216 (100)
政令市	64 (27.5)	168 (72.1)	1	233 (100)
市区町村	1,749 (70.2)	719 (28.9)	24	2,492 (100)
総計	1,882 (64.0)	1,027 (34.9)	32	2,941 (100)

※（ ）内は構成比

●運営組織

芸術文化施設の施設タイプ別に常勤職員と専門職員の数を集計したのが【表4】である。常勤職員の総計は18,655人で、1施設あたりの平均職員数は6.8人となっている。プロパー職員数は総計5,376人で、1施設あたりの平均は5.0人だった。施設タイプで比べると、ホール・美術館複合施設で平均職員数が9.5人と最も多かった（プロパー職員数についても同様）。

また、専門職員として芸術監督を擁している施設は23館（計26人）、プロデューサーを擁している施設は33館（計50名）であった。こうした専門職員については、ホール単体施設とホール複合施設に多く、全体の96.0%にあたる73人がここに集中している。

設置主体別に常勤職員と専門職員の数を集計したのが【表5】である。常勤職員の内訳は、都道府県設置施設7.2%（1,338人）、政令市8.5%（1,594人）、市区町村84.3%（15,723人）となっている。1施設あたりの平均職員数で比べると、常勤職員数、プロパー職員数ともに大きな差はみられなかった。

【表4】施設タイプ別常勤職員・専門職員数（平成12年4月現在）

施設タイプ	常勤職員	プロパー職員	プロデューサー	芸術監督	学芸員
ホール単体	7,809 (6.5)	2,252 (4.8)	30 (1.6)	13 (1.0)	28 (1.3)
美術館単体	1,715 (6.6)	497 (5.0)	1 (1.0)	2 (1.0)	712 (3.5)
練習施設単体	244 (7.4)	81 (8.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.0)
創作工房単体	376 (6.6)	96 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
ホール・美術館複合施設	323 (9.5)	98 (7.0)	0 (0.0)	3 (3.0)	100 (4.2)
ホール複合施設	7,640 (7.1)	2,211 (5.3)	19 (1.5)	8 (1.1)	122 (2.3)
美術館複合施設	334 (5.8)	73 (4.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	133 (3.2)
練習場・創作工房複合施設	214 (5.4)	68 (4.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (2.3)
総計	18,655 (6.8)	5,376 (5.0)	50 (1.5)	26 (1.1)	1,121 (3.2)

※（ ）内は施設あたりの平均値。平均は有効回答数を母数として算出

【表5】設置主体別常勤職員・専門職員数（平成12年4月現在）

施設タイプ	常勤職員	プロパー職員	プロデューサー	芸術監督	学芸員
都道府県	1,338 (6.6)	352 (5.3)	10 (1.7)	7 (1.0)	474 (6.1)
政令市	1,594 (7.3)	337 (4.6)	2 (2.0)	3 (1.5)	137 (5.7)
市区町村	15,723 (6.7)	4,687 (5.1)	38 (1.5)	16 (1.1)	510 (2.0)
総計	18,655 (6.8)	5,376 (5.0)	50 (1.5)	26 (1.1)	1,121 (3.2)

※（ ）内は施設あたりの平均値。平均は有効回答数を母数として算出